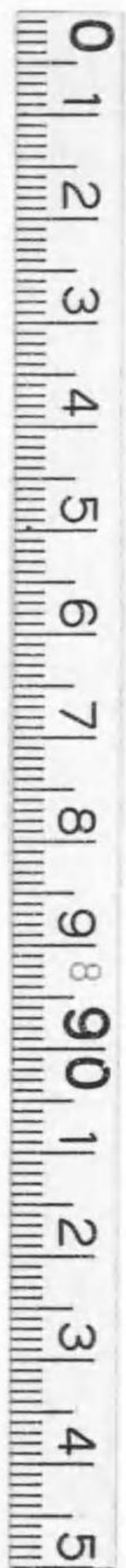


近衛豫樂院和漢抄

301-7



1200501367194



始





近衛豫樂院和漢抄



翠巖而為枕家門坐後松樹之涼每歲

見天台山之高巖四十五尺波白望長安

城之遠樹百千萬莖蒼青順

江霞障浦人煙遠湖水連天鷹點色在行

一行斜看雲歸滅二月餘花望外飛順

老眼易迷殊而羨春情難繫夕陽前萬歲

四海安危照掌内百王理氣懸心中百鍊鏡

幸逢堯舜五力化得作羲皇向上人白

聖皇自在長生殿不向蓬萊王母家楊銜

仁流秋津池之外直茂筑波山之陸海

夏作漁之勢亨之用口沙長為教之

頌澤、海耳和号序

梁元帝極春王之月漸落周穆新會西

此在北是人間種再苦平喜一自殿三三

いふふれどこのと、付れたるはらわ

たか、ふみのまのまのわとれめ我皇徳太子

丞相付執政

孝文子高不衣步魯人、以為美談、おん

身服布衣、被汲、隨、織、之、多、詭はげま

百官、美、乞、乞、於、道、詭、終、云、美、以、政、再

之之渭之北表司徒之出極
 傳以歲之危隆風雲於教着之及
 復救之水狼徑沿於漢聘之初普三
 喜過之及軍表司徒之家書直海在
 胡南嘗小鄭大尉之漢風被入知
 山老々々あゝあゝいゝをさみゝゝゝのん

戊為知新便地為馬志在昔名喝人
 たあゝけあたああけあゝゝゝゝ
 ああゝゝあゝあゝあゝあゝあゝ

刺史

士女望於五月の夕天と垂紫梅花前白
 精の合浦珠相似新割良音匂石也
 離三百並莫陰森過去不是疎心法一南
 句可重詠北澹也之詩圖
 保胤

羅袖不遑回火尉鳳釵還悔鰲香奩
 和風先導董煥出珍重紅房透翠蘆
 嫌褰錦帳長薰麝志半珠簾晚弄釵
 欲去今日新飢癯泣夢先期意賜夢紀
 あまはるをさくともけいこいしちりあまら
 ともあはれしつたふすしあまら

林霧棧夢驚不老岸風濤力柳搖強月
 醉對落花心自靜眠思餘美淚先紅雅記
 みるくはなにはらふしらねたきながあああ
 こいちはまね
 泣くまのえまはよせあしあまら。

昇殿是家外之選也俗骨不可以
語蓬萊之書尚書之方不也
庸すふとい世孝卷宮く月立勢
新正初和運三代嵯峨恒月伯鸞等
西意而ゆき道

之下暗生諸骨火漢中係銳刺人刀

載鬼一車げ之忍棟立三峽未ぬ花
梵三閻磔終河益周伯夷飢未衣矣
なまをくくみのいさうななりねん
のれもはむしもやきしと
よみいのはきもかきもたきしと
みやもわらもはきしもたきしと
かきけもつたにきあつたよきなりと
うらやよしとてはあつたうのれ

吏部侍郎祿侍中表此初書深微言
錦魚梅底舞春浪
花月一忘支昔眠
省躬遂取相知久
うねりてをむりいよつみ

嘉辰今月歡無極
萬歲千秋永未央

謝德

長生殿裏喜相逢
不老門前日月逢

任胤

わさよみはちよわちよわさ
のいれりなやうに
よらよらふらふら
よあめたふらふら

貞女峽空唯月夕窈娘境舊獨波聲の
 わるゝとひさしゆらぐとまをくもあ
 ありをさるゝわをゆりふゆふ
 たのあつゝおよあまたふたふりゆれはま
 うしよとたもふふまをわくふ丸
 いまをむとまをいちりふたふりゆれはま
 わあをれはまをいちりふたふりゆれはま

生者必滅掣奪未究梅橙と橙示老
 来天人格色と老と日
 朝有紅顔診世海言わら骨朽粉紅
 陸親秋月は中彩未道春花夢裏名
 よのかいともたかめりてふんあを命あな
 りるゆりふたふりゆれはま
 在中はゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり
 ありあはるゝあはるゝあはるゝあはるゝ

了もむすやみはもやとむつよるの
 あらうにいふうはよまゝあやられ
 すきのつゆものけはやあいのの
 ねむれともさあだりなうん

白

東皇なる歎花年々吉日焉以渥
 帝倚道と種屯之東時鶴懐ら陸

和 漢 抄	
昭和十年一月廿八日 印刷	和漢手本大成 第十卷
昭和十年二月一日 發行	編輯者 下中彌三郎
	東京日本橋區
	印刷者 關口一男
	東京日本橋區
	發行所 平凡社
	東京日本橋區
	印刷所 共同印刷株式會社
	東京小石川久堅町

(本製田村)

301
7

終